

会報



◇史学会総会

六月一日(土)、C棟三〇二教室において第九回奈良大学史学会総会が行われた。松島逸彦学生委員の司会のもと、一九九〇年度の事業・決算・会計監査報告が滞りなく行われ、次いで一九九一年度の役員人事案・事業計画案とそれに伴う予算案が示され、それぞれ原案どおり承認された。一九九一年度の役員は次のとおり。

▽会 長 水野柳太郎

▽副会 長 松山 宏

▽教員委員

(監査) 堀内 一徳、青木 芳夫

(編集) 菅野 正

(庶務・会計) 明石 岩雄

(庶務・雑誌交換) 森田 憲司

▽学生委員

(代表) 米田武弘、(副代表) 川本哲也、(渉外) 奥田雅

也、(書記・会計) 三村多香子、(総務) 白岩修、妹尾真二、田中宏明、牧田留美、松平啓、水野由規、宮内敦子、宮田博和、(編集) 沢田潤、菅野谷俊英、万代恵、堀有希、松島逸彦、虫明富美、(交流) 姉川裕一、今井睦美、木村和代、京谷裕彰、長尾芳子、中野一平、(広報) 石橋都貴絵、大月愛、川路清志、京谷亜希子、佐藤彰彦、曾田辰雄、永井隆之、長谷川祐一、本田真理、松永久美、松本葉子、山下ちあき

◇特別講義

六月一日(土)、史学会総会にひき続き、奈良大学史学科・史学会共催の特別講義が行われた。講師・演題は次のとおりである。

堺女子短期大学助教授 田中俊明氏

「いわゆる『任那日本府』について」

立命館大学講師 掛谷宰平氏

「ある(青)少年の戦中・戦後—戦争と革命—」

◇現地見学会

春期現地見学会として、六月十五日(土)に奈良町散策を行った。当日は多数の参加者を迎え、賑やかな雰囲気

の中、係の説明に対する質問も活発であるなど盛会であった。特に、古い街並みの景観保全について関心が高かった。

また秋期にも、十一月十七日(日)に山の辺の道散策を行った。

◇定期講習会

定期講習会とは、歴史関係のビデオ(映画・ドキュメンタリー等)を上映し、それに関する資料を集めて、自由に討論するものである。本年度は六月二十二日(土)に『西太后』を、十月十二日(土)に『三国志』をテーマに開催した。両回とも多数の参加者を迎えて好評であった。

◇卒論中間報告会

十一月三十日(土)、第八回卒論中間報告会がC棟二〇三教室において行われた。今回も多数の学生が参加し、熱心に報告を聴き入っていた。質疑も活発であった。

今年度の報告者と論題は次のとおりである。

中野 一平「『朱・毛紅軍』の成立とその活動」

岩田 文章「山陰地方横穴墓論考―群構成・形態論を中心として―」

笠井 賢治「国人領主関氏」

河原崎統基「天明浅間焼けを通してみる中期封建社会の構造的特質について」

前田 美和「インカ王道とチャスキ」

◇「史学会会報」等の発行

本年度は予定通り「会報」を六回発行し、通算で二十号を数えるに至った。「会報」は史学会の行事案内や活動の普及を目的としたものであるが、特に本年度は、書式の改善や関心の高い話題について特集を組むなど、内容の充実を力を入れた。

また、一年次生へ向けた「講読紹介」と「歴史学への扉」(参考図書を紹介する小冊子)を十一月に発行した。

◇会員動向

○松山 宏氏(日本中世史担当)は、八月上旬、リトアニア・ラトビア・エストニアのバルト三国を旅した。それらの国には十六〜十八世紀の建物が少なからずあり、現在も使用されているのがある。いずれの国も町並保存には非常に力をいれている。

○森田憲司氏(東洋前近代史担当)は、三月十五日から十八

日まで、「フリーツアー」に参加して上海に旅行した。氏によれば、上海市内を歩き回ることによって、団体旅行では訪れる機会の少ない史蹟を参観することができたのと。

また、八月六日から二十二日まで、中国へ出張し、北京で開催された「国際宋史研討会」に出席し、発表（関于日本現存『事林広記』諸本）をすることも、会議終了後、資料収集調査のために、北京市内をはじめ、山西省の大同・太原・平遙（城壁都市として有名）などを旅行した。また、その旅途に南京に立ち寄り、南京大学元史研究室の陳得芝教授を訪問した。

ついで、八月二十九日から九月七日まで、台北で開催された「第七届中国域外漢籍国際学術会議」において発表（和刻本『事林広記』について）を行うために、台湾を訪れた。また、会議終了後に、台南・彰化に旅行し、台南では大天后宮の普渡祭典に参加した。

なお、北京出張は、奈良大学短期海外研修費によるものである。

平成二年度史学科卒業論文

〔日本史〕

天皇権力と太政官

—藤原宮子大夫人称号事件の再検証—

施薬院について

古代の女帝の性質について

—持統・元明・元正を中心として—

朝覲行幸の成立

中衛府について

奈良時代の寺院における鎮について

出雲国造の神賀詞奏上について

女帝とその背景

—持統・元明・元正の即位において—

古代遷都の性格

藤原永手についての一考察

古代における僧尼の統制について

道慈について

秋篠安人について

令制四位について

中宮の意義の変遷

池田 篤史

成山 裕之

新井 敏恵

荒巻 新吾

榎本 和恵

岡本 和美

尾上 明

梶谷 佳世

門井 久登

古賀万智子

児島 玉美

小西 輝代

品川 智絵

高木 春美

高橋 純子

天智天皇の子孫の処遇と光仁天皇の即位

奈良時代太政官制の研究

祈年祭の衰退について

聖武天皇の行幸と留守

続労働考

奈良時代の齋宮寮

古代女帝論

佐々木道誉

—ばさら大名の代表者—

豊臣秀吉の権力的性格

戦国時代の守護小笠原氏と国人坂西氏

関東における親鸞

平重盛

—その立場と役割—

戦国末期の阿波山間土豪について

鎌倉幕府における将軍の側近層

—大江広元を中心にして—

中世の灌漑について

—紀伊国東村を中心に—

織田信長と一向一揆勢力の対決

土井 昭宏

中井 琢也

羽賀 信幸

土方 亜紀

柳瀬 晴紀

山口 良隆

山田 秀明

中村 介一

池田 賢治

居山 克明

内田 輝美

大西 義二

奥田 和世

北川裕紀子

小山 明子

櫻井 修一

中世武士の死生観

—鎌倉のやぐらを中心に—

足利高氏の六波羅攻めの前後

院政時代の民衆像

—大田楽の流行を中心に—

豊臣秀吉による博多の復興

南北朝初期の伊勢神宮

中世の女性像

—白野富子—

戦国時代における村上水軍の動向

山科家の家産

—十五世紀における山科家の家産—

鎌倉期における公武関係

—四代將軍藤原頼経の存在について—

中世における水軍

—淡路水軍の動きを通して—

千利休賜死事件

赤沢朝経の大和侵入と国人の動向

中世における吉野大衆の動向

中世における非人

齋藤 真也

佐々木利昭

佐藤理恵子

白石 幸子

白川 郎

高瀬 香織

辻 伯夫

中尾 達夫

中村 容子

林 尚美

増井 順子

松崎 恵子

宮里 剛

八尾 基代

山崎 浩子

— 非人施行に見える慈善事業の考察 —

戦国期三河における諸豪族の動向

依田 佳久

— 今川氏の三河制圧過程における松平、戸田両氏の動向 —

☆ ☆ ☆

薩摩藩と琉球の貿易に関する一考察

松田 政幸

松前藩の経済政策にみる蝦夷地支配

岩貞 均

大塩平八郎の乱を通してみた天保期の大坂

植田 和哉

池田光政の備前藩政と庶民教化政策

江尻 泰

— 郡中手習所設立背景をめぐって —

三河における徳川氏の領国支配の展開

岡部 考伸

— 三河本願寺教団に対して —

近世中期における倭約令と庶民生活

荻野 大輔

過書奉行角倉与一と過書船外の紛争

小野 直哉

幕末、奥羽越列藩同盟についての一考察

片山 里美

近世中期における商家の構造

近藤 麻子

近世中期以降における枚方宿の町場と宿観

坂井 明美

松平定信の農政観と寛政の改革

酒井 明美

江戸における庶民情報の展開

塩田才恵子

江戸時代における家譜・系図の社会的意味

杉原 正英

天保の飢饉と農民の闘争

梶山 浩憲

— 甲州天保一揆の展開と背景 —

『要助日記』から見た幕末京都

鈴木 知子

享保飢饉における施行と町人思想

田中 佐知

統一政権成立過程における堺の豪商の役割

谷 賢一

江戸初期における朝暮関係について

中村 美和

— 幕藩制成立期の一条件としての朝廷 —

幕末彦根藩における風聞探索の歴史の意味

永井 昭弘

江戸幕府の出版統制と出版業

野呂 和弘

— 上方出版界における大坂の特殊性を中心に —

郡山藩における無地高増政策についての一考察

橋本 裕史

高山右近の信仰と築城について

吉田 義徳

田沼意次の失脚と松平定信の入閣

渡邊 和子

☆ ☆ ☆

山口市に於ける学徒勤労働員について

宇佐川民子

— 防長精神と教育 —

城崎温泉の内湯訴訟問題について

大川 展弘

昭和初期における琵琶湖開発について

大川美也子

— 人絹工場を中心に —

足尾銅山鉱毒事件その後

大森 幸恵

岡山県南における広域都市計画について

栗山 和己

港湾都市門司の開発における沖仲仕の位置

近藤 広幸

—明治期の石炭荷役を通して—

富士における農業用水と工業用水の競合 佐々木章次郎

北伊豆地方における農民運動の展開 塩川 龍一

—舟那トンネル工事と渇水問題を通して—

愛知県碧海郡における農業の特質と産業組合の発展について 杉浦 隆司

奈良県再設置運動について 武田富美子

巨椋池干拓事業に関する払下げ問題 中堀 夏樹

東京都制成立に関する一考察 別所 崇

奈良県における木綿業の近代化 前川 憲男

—公園案内人と興立舎を通して—

奈良公園の成立過程における一考察 安江 孝司

奈良県における空襲と文化財疎開について 湯浅 聡子

福井県嶺南地方における復興運動について 吉岡 玲子

〔東洋史〕

中国中世における史書研究について 植田 輝行

元代に於ける色目人の活動について 吉次 直美

—元朝初期四人の財務長官の権力—

清明上河図からみた宋代の都市生活 小坂真名美

清代北京の書店業 田中 恵子

中国古代の民間医業 林 純子

唐の建国過程について

中国近世における族内秩序の維持

—族的規範と家族的規範—

中国民間の神々とその伝承

—唐・宋時代における城隍神信仰—

太平天国における農民運動

秋瑾—辛亥革命期の婦人解放思想

宋代の茶専売制について

—權茶法を中心として—

明代皇帝独裁下における宦官の専横について

併合前の日本と朝鮮の関係

—朝鮮保護政治について—

〔西洋史〕

初期教会史

—何が彼らに力を与えたか—

ゴヤとその時代

ローマ帝国の衰亡

—経済と社会の変化—

『否定告白』における審判者—神々

—その定数42と古代エジプトのノモス(州)の關係について—

原田 拓也

元安 今日子

森下 睦子

木股 英明

紫垣 百合

樋廻 隆司

満友 洋行

依藤 成雄

今藤 達徳

吉居 健史

豊濱 勇治

龜山 典子

エーゲ海世界の古代都市文明について

今野 亮

ポエニ戦争史

郷森 勇一

絶対主義時代のプロイセン

杉本 洋文

クレオパトラ7世の生涯

中埜 青葉

古代イスラエルの王政について

西村真理子

古代ギリシアにおける神殿建築

野間 英志

古代ギリシアの政治と軍事の関係について

南 康一

パスタの歴史

向井 和臣

☆ ☆ ☆

イタリヤ・ルネサンスとその社会的背景につ

いて

青山 陽子

ゲルマン民族の大移動の経過と特徴

浅野 明子

ビザンツ帝国の展開について

大場 直樹

絶対王政期におけるフランスの変遷について

神田 和彦

フランス革命の原因と発端

國分 明子

フランク王国におけるキリスト教会の役割に

佐伯 智子

ついて

多賀 和美

十字軍の展開

カステイリーヤにおける内政と対外政策の発

展について

橋本紀代子

アンシアン・レシーム末期における財政と租

税について

増井良太郎

十字軍時代における宗教的騎士団の形成

増田 信直

ルネサンス絵画の形成

森口 直美

—フイレンツェを中心に—

フランス革命における党派の動向とその思想

山下 純美

的背景について

☆ ☆ ☆

スペインの対インディアス政策について

船江 秀一

インカ社会と宗教

河西加代子

ウイリアム・ウォーカー論

蒲池 清士

—奴隷制の布告について—

倉住 明子

1940年代のオーストラリア外交とエヴァ

興梠小百合

ット外相

倉住 明子

先スペイン期ペルーに関する考古学的検討

興梠小百合

—インカ時代の建築物と都市構造—

谷本 博則

宥和政策と民衆

橋本 昌史

異民族の侵入とマヤ文明

前原 和明

後古典期メソアメリカ社会

前原 和明

〔考古〕

出平 知裕

古墳時代埋葬頭位の考察

山崎 智弘

奈良市の廻り地蔵について

—その意味と考察—

受贈雑誌及び図書(自一九九〇年十二月
至一九九一年十月)

○雑誌

- アカデミア(南山大学)人文社会科学篇五三号
アジアアフリカ言語文化研究 第四〇、四一号
アジア研究所紀要(亜細亜大学アジア研究所)第一七号
アジアの変容(亜細亜大学アジア研究所紀要第一八号)
愛知大学文学論叢(愛知大学文学会)第九六一八輯
岩手史学研究(岩手史学会)第七四号
お茶の水史学(お茶の水女子大学読史会)第三四号
大阪の歴史(大阪市史編纂所)第三一号
大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館年報 一九九〇
岡崎市史研究(岡崎市史編纂委員会)第一三三号
鹿大史学(鹿児島大学法文学部)第三八号
海南史学(海南史学会)第二九号
漢学研究通訊(漢学研究センター)第九卷第四期、第一〇卷第一、二期
キリスト教史学(キリスト教史学会)第四五集
紀尾井史学(上智大学大学院史学専攻院生会)第一〇号
吉備地方文化研究(就実女子大学吉備地方文化研究所)第

三号

- 京都市歴史資料館紀要 第七、八号
京都橘女子大学研究紀要 第一七号
皇学館史学(皇学館大学史学会)第四・五号
神戸大学史学年報(神戸大学史学研究会)第六号
四天王寺国際仏教大学紀要 文学部第二三三号、短期大学部
第三一号
史苑(立教大学史学会)第五一卷一、二号、第五二卷一号
史観(早稲田大学史学会)第一二四、五冊
史学(三田史学会)第五九卷第四号、第六〇卷第一—四号
史泉(関西大学史学・地理学会)第七三、七四号
史窓(京都女子大学史学会)第四八号
史叢(日本大学史学会)第四六号
資料館紀要(京都府立総合資料館)第一九号
静岡大学人文学部人文論集 第四一号
秋大史学(秋田大学史学会)第七号
就実女子大学史学論集 第五号
上智史学(上智大学史学会)第三五号
信大史学(信州大学史学会)第一五号
神女大史学(神戸女子大学史学会)第七号

- スペイン史研究（スペイン史研究会）第六号
 住友資料館報 第二二号
- 西洋史学報（広島大学西洋史学研究会）第一八号
 西洋史論叢（早稻田大学西洋史研究会）第一二二号
 聖心女子大学論叢 第七六、七七号
 専修史学（専修大学歴史学会）第二三三号
 双文（群馬県立文書館）第八号
 高田史学（高田史学会）第七号
 橘史学（京都橘女子大学歴史学会）第五、六号
 千葉史学（千葉歴史学会）第一七、一八号
 地域研究 いたみ（伊丹市立博物館）第二〇号
 近松研究所紀要（園田女子大学近松研究所）第二号
 中央史学（中央史学会）第一四号
 中国水利史研究（中国水利史研究会）第二〇号
 帝京国際文化（帝京大学国際文化学科）第四号
 帝京史学（帝京大学史学科）第六号
 東海史学（東海大学史学会）第二五号
 東洋史苑（龍谷大学東洋史学研究会）第三六号
 東洋大学文学部紀要 第四四集
 徳川林政史研究紀要 第二五号
- 寧楽史苑（奈良女子大学史学会）第三六号
 二松（二松学舎大学大学院文学研究科）第五号
 二松学舎大学東洋学研究所集刊 第二一集
 二松学舎大学論集 第三四号
 白山史学（白山史学会）第二七号
 日本研究（国際日本文化研究センター）第四集
 日本思想史研究（東北大学文学部日本思想史学研究室）第二三三号
 日本常民文化紀要（成城大学大学院）第一六号
 日本文化史研究（帝塚山短期大学）第一四号
 日本モンゴル学会紀要 第二一号
 新潟史学（新潟史学会）第二六号
 年報中世史研究（中世史研究会）第一六号
 兵庫教育大学研究紀要 第9巻第二分冊―二（社会系教育）
 第10巻第二分冊―二（社会系教育）
 兵庫県の歴史（兵庫県史編集専門委員会）第二七号
 弘前大学国史研究（弘前大学国史研究会）第九〇号
 広島大学東洋史研究室報告 第一二、一三号
 文研会紀要（愛知学院大学大学院）第一、二号
 法政史学（法政大学史学会）第四三三号

法政史論（法政大学大学院日本史学会）第一八号

北大史学（北海道大学史学会）第三〇号、三一号

三井文庫論叢 第二四号

御影史学論集（御影史学研究会）第一六号

民具マンスリー（神奈川大学日本常民文化研究所）第二三

巻一〇―一二号、第四巻一―六号

明代史研究（明代史研究会）第一九号

鷹陵史学（仏教大学歴史研究所）第一六、一七号

横浜市立大学論集（横浜市立大学学術研究会）第四一巻

一・二・三号

横浜商大論集 第二四巻第一、二号

龍谷史壇（龍谷大学史学会）第九七号

歴史（東北史学会）第七五―七号

歴史人類（筑波大学歴史人類系）第一九号

○ 図 書

学習院大学東洋文化研究所調査研究報告二七 朝鮮後期の

慶尚道丹城郡における社会動態の研究（Ⅰ）

学習院大学東洋文化研究所調査研究報告二八 アジア諸国

における国民統合過程の分析

儀式書を中心としてみた平安時代政治機構の総合的研究

（研究代表者早川庄八）

群馬県行政文書件名目録 第四集 明治期学務編目（群馬

県立文書館）

群馬県立文書館収蔵文書目録 九 藤岡市保美 清水家文

書（群馬県立文書館）

精華町の寺社と美術（改訂版、精華町）

竹林寺の歴史（中尾良藏著）

日本肖像画図録（京都大学文学部博物館）

豊後国都甲荘四 国東半島荘園村落遺跡詳細分布調査概報

（大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館）

耶馬台国の年代構造（安台洲著）

この項は、最近一年間に、奈良大学史学会、もしくは奈良大学史学科に、交換・寄贈を受けた雑誌・図書を掲載しております。

なお、これらの雑誌・図書は、整理の後、奈良大学図書館に移管され、全学の学生・教員の研究・学習に活用されることとなっております。